

は し が き

高等学校家庭科の食文化の指導方法の一つとして、パーソナルコンピュータを導入した「郷土食」学習についての研究報告をここに刊行いたします。

「食べる」ことは、生きていく上での基本的な営みであり、かつては食べることに最も知恵を働かせたと言われます。しかし、現代の食生活は、グルメ志向が益々強くなる反面、日常の食生活は簡便化、即席化され、生徒は食べることを大変軽く考える傾向があります。その結果、中には、食生活の偏りがみられ、様々な栄養障害が心配されております。身体的な障害はもちろんのこと、精神的にもストレスに弱く、感情のコントロールが出来ないとか、登校拒否やいじめ、暴力行為など食生活が原因と思われる生活指導面の問題も多くなっている現状です。

このような状況の中で、正しい食生活について、学習の定着を図るための指導の工夫が重要な課題となっております。

学習の定着を図る有効な指導方法は、できるだけ生徒の生活に密着した題材で、実践的、体験的に学習を進め、学習内容を自分のものとして受止めさせ、学習に主体性を持たせることであると考えます。

そのような学習指導の試みとして、生徒の身近にある各地域の「郷土食」を題材とし、この学習を能率的、効果的に行うためパーソナルコンピュータを用いる方法を考えました。コンピュータを用いることにより、収集した郷土料理をデータとして保存が出来、検索も容易に行うことが出来るので授業の効率化が図られ、生徒もこのような学習に意欲的に取り組むものと思われれます。

そして、事実や実物に直接ふれ、体験から得た認識や感動から学習の理解を深めることが出来、理論と実践の一体化により近づいた授業が展開されることを目指したものであります。

この報告は、生徒の学習の主体性を高め、学習の定着を図る授業改善の方途をさぐるための一つの試みです。これを資料として、授業で実践化を図っていただき、きたんのないご指摘、ご指導をいただければ幸いです。

終りに、校務多忙にもかかわらず、郷土料理の収集やパーソナルコンピュータの入力に御協力いただいた4人の協力員の先生方をはじめ、各地域の郷土料理や生徒のアンケートにご協力くださいました諸先生方に、心からお礼申し上げます。

平成元年3月

新潟県立教育センター

所 長 長谷川 武 雄